

発表 7	小さな繭が地域を紡ぐー伝統産業から創薬生産へ 駒ヶ根カイコプロジェクト
団体名	駒ヶ根市(長野県)
問合せ先	農林課農政係 Tel:0265-96-7723 E-mail:nosei@city.komagane.lg.jp

取り組み概要

かつて養蚕業が盛んだった長野県駒ヶ根市では、自然や気候を活かし、絹文化が深く根付いてきました。その歴史と技術、そして人々の思いを未来へつなぐ拠点として誕生したのが「駒ヶ根シルクミュージアム」です。ここでは養蚕や製糸の歴史から最新のカイコ研究まで幅広く紹介し、体験を通じて養蚕文化の魅力を発信しています。

2024年3月、当市は、九州大学発のバイオベンチャー「KAICO 株式会社(福岡市)」と連携協定を締結し、「カイコプロジェクト」が本格始動しました。同社は、蚕を使ったタンパク質生産技術を活用し、ワクチンや診断薬などを開発していますが、日本では養蚕の衰退により、創薬用の蚕の確保が難しく、供給先を探している状況でした。

この課題を解決すべく、当市では市民の協力のもと蚕を飼育し、同社に繭を供給。同社は繭から蛹(さなぎ)を取り出し、医薬品開発に活用しています。不要となった繭ガラは当市に戻され、繭クラフトや真綿づくりなど、地域資源として再活用されています。

本取り組みのきっかけとなったのは、3年前に就任したシルクミュージアム館長の「先端研究と地域の伝統産業をつなげよう」という提案でした。蚕の飼育は「ミニミニ養蚕」と称し、市民に希望を募ってご協力いただくとともに、シルクミュージアムのほか、使われなくなった教職員住宅、市役所、公民館などを活用する中で、子どもからシニア世代まで幅広い市民が参加する活動となっています。餌となる桑の確保は、市内に残る桑園や休耕地が市民の手で提供され、地域資源の有効活用にもつながっています。

また、自分たちが育てた蚕が人類や家畜を救う薬となるという希望は、市民に大きな誇りと活力をもたらしています。創薬に不要な繭も、地域の伝統産業の復活に活かされ、シニアから子どもたちへと技術や文化が受け継がれていく中で、新たな地域コミュニティの形成としても期待されています。さらに、同社からは蛹代金が地域に還元され、繭ガラを活用した製品も個人や団体の収益となっています。金額は少額ながら、桑園の提供者、養蚕者、繭ガラの活用者それぞれにとって意義ある支援となり、事業の継続性や広がりを生んでいます。高齢者や障がいのある方も無理なく関われる仕組みは、人の輪を育む取り組みにもなっています。

小さな繭に込められた可能性が、
地域の未来を紡ぎ始めています



KAICO 株式会社ホームページより引用